

科目名 (英)	導入教育 I Introductory Education I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	授業で使用する器具・機材の名前を覚えながら必要な材料を整理し、授業をスタートできる準備をする。						
科目概要	1年間で学ぶカリキュラムの科目の目的を理解し、専門教育への移行をスムーズにすることを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料の名前を覚える。 ・指示通りに材料を整理することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポート(課題提出)をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	めきめき本物の国語力が身につく～コミュニケーション技法			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 積極的に授業に参加できるようテキストを読み返しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	体験学習「積極的に参加した事を振り返る」 グループ学習「グループで対話し、意見をまとめる」						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オンライン授業の受講方法 歯科技工士と歯科衛生士の仕事	演習	オンデマンド授業の視聴～課題提出までの一連の流れを理解する。 歯科技工士、歯科衛生士の仕事ができる。
2	歯科衛生士の三大業務	演習	歯科衛生士の三大業務がわかる。 歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の業務内容が分かる。
3	材料チェック	演習	チェックリストと照らしあわせながら材料の確認ができる。 材料の名前を覚え指示された場所に整理することができる。
4	材料チェック	演習	チェックリストと照らしあわせながら材料の確認ができる。 材料の名前を覚え指示された場所に整理することができる。
5	歯科技工で使う器具機材	演習	歯科技工で使う器具機材の名前が分かる。 器具機材の使用用途が分かる。
6	材料チェック	演習	チェックリストと照らしあわせながら材料の確認ができる。 材料の名前を覚え指示された場所に整理することができる。
7	材料チェック	演習	チェックリストと照らしあわせながら材料の確認ができる。 材料の名前を覚え指示された場所に整理することができる。
8	歯科技工で使う器具機材 (有床編)	演習	義歯製作で用いる器具機材の名前がわかる。

科目名 (英)	コミュニケーション基礎 I Communication Skills I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	演習		無		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	コミュニケーションの種類や方法を知ることで、人と関わり合いながら自らの目的を達成できるようになる。						
科目概要	言葉を使って自分なりに考え、他者と考えを通じ合わせ「聞く」「話す」「読む」「書く」をグループワークを通じて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを相手に伝えることができる。 ・相手の意見を受け入れることができる。 ・多種多様な考えがあることが分かる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポート(課題提出)をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	めきめき本物の国語力が身につく～コミュニケーション技法			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 積極的に授業に参加できるようテキストを読み返しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	体験学習「積極的に参加した事を振り返る」 グループ学習「グループで対話し、意見をまとめる」						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	コミュニケーションとは	演習	コミュニケーションの種類と方法が分かる。
2	大森フォトラリー	演習	出題された課題をチームの中で「話す」「聴く」「書く」「読む」を使って解決し、目的を達成することができる。
3	浅草フォトラリー	演習	出題された課題をチームの中で「話す」「聴く」「書く」「読む」を使って解決し、目的を達成することができる。
4	浅草フォトラリー	演習	
5	レポート作成	演習	フォトラリーで一番印象に残ったことを「書く(パワーポイント)」を使って、伝えることができる。
6	横浜フォトラリー	演習	歯の博物館で歯科医学の原点を知ることができる。 出題された課題を「話す」「聴く」「書く」「読む」を使って解決し、目的を達成することができる。
7	横浜フォトラリー	演習	
8	レポート作成	演習	フォトラリーで一番印象に残ったことを「書く(パワーポイント)」を使って、伝えることができる。

科目名 (英)	インターンシップ I Internship I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	演習		無		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が歯科技工所見学歯科技工業界に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯科技工士、歯科衛生士の仕事を知ること、自分に合った進路選択ができる。						
科目概要	歯科医療に関わる代表的な職種を知ることができる。						
到達目標	・歯科技工士、歯科衛生士の仕事を理解する。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、各回レポートの評価を100点満点とし、平均点にて行う。レポートの提出日については開講日に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】訪問する企業、就業体験企業のホームページや求人票の確認を推奨する。 【事後学習】得られた経験をレポートへまとめ、経験を振り返る。		
参考図書	必要なときに紹介します。						
特記事項	見学及び就業体験の際には著作権のある資料を除き、許可を得て写真撮影を行い、担当者からのフィードバックも残しておくこと。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	歯科技工士の仕事	演習	歯科技工士が作る補綴物の種類が分かる。				
2	歯科技工士の仕事	演習	レジンを使って入ればボールペンの製作レジンの特性が分かる。操作方法が分かる。				
3	レポート作成	演習	補綴物の種類、レジンの特性と操作方法やコツ・注意点をまとめる。				
4	歯科衛生士の仕事	演習	歯科衛生士の3大業務が分かる。 歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導				
5	歯科衛生士の仕事	演習	アルジネート印象材の練り方体験 アルジネート印象材の特徴がわかる。印象材の練り方がわかる。				
6	レポート作成	演習	歯科衛生士の業務内容について、アルジネート印象材の操作方法やコツ・注意点をまとめる。				
7	歯科技工士の仕事②	演習	光重合レジンの特性がわかる。 ステイン方法で歯の色の表現方法がわかる。				
8	自国の歯科事情	演習	自国の歯科事情についてグループワークを行う。 健康な歯を保つために必要なことを検討し発表する。				

科目名 (英)	情報技術基礎 Information Technology Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	(株)ブレインスタッフコンサルタンツ
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	コンピュータ関連企業、(株)ブレインスタッフコンサルタンツにてネットワーク事業の実務経験を有した講師が、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての授業を行う。						
目的	PowerPointを利用し、効果的なスライド作成の技術を習得する。また情報を扱う際の注意点を正しく理解する。						
科目概要	PowerPointの基本的操作を学び、聴衆者に伝えることを目標にプレゼンテーション資料をPowerPointで作成する情報を扱う際に注意するポイントや、厳守すべき法律について学習する						
到達目標	PowerPointを利用し、聴衆者に伝えるプレゼンテーション資料を作成、発表できる情報を正しく扱うことができる						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「課題提出」を20点、及びレポートを80点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	e-learning(インターネット上のテキスト)			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 e-learning(インターネット上のテキスト)で次回講義までに不明な操作を確認しておく		
参考図書	なし						
特記事項	テキストには、専門学校の学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用します。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	[PowerPointダイジェスト1] スライド作成の基本的な操作ができる	演習	・テーマの設定 ・画像や図形、テキストボックスやワードアートの挿入
2	[PowerPointダイジェスト2] スライド作成の基本的な操作ができる	演習	・画面切り替え、アニメーションの設定 ・シナリオの作成
3	[プレゼン基礎1]	演習	・プレゼンテーションの概要 ・準備、作成
4	[プレゼン基礎2]	演習	・デザインテーマの配色やフォント ・図解を活用する利点、作成や編集
5	[プレゼン基礎3]	演習	・表を活用する利点、作成や編集 ・SmartArtグラフィックの作成や編集
6	[PowerPoint、ITリテラシー]	演習	・プレゼンテーション資料の完成、リハーサル ・ITリテラシー 注意するポイントや・厳守すべき法律
7	[発表1]	演習	・発表(学科紹介、自己紹介) ・評価
8	[発表2]	演習	・発表(学科紹介、自己紹介) ・評価

科目名 (英)	心理学基礎 Physiology Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤林 殊巳
		授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
講師紹介	幼稚園教諭を経て、大手新聞社資料記者として様々な角度から日本を見つめる。現在もカウンセラーとして教育業界に長く関わり、生涯学習教室を30年経営。講師として5校の教鞭をとるかたわら、三代続く家業の女将として経営にかかわる講師が行う安定感のある授業です。講師は、文部科学大臣より生涯功労賞受賞。様々な角度からビジネスマナーが身につく講義です。						
目的	自分自身の心を守り、社会の一員として結果を出せる力をつけ、他者とのかかわりあい方を学ぶ。社会に出てからの人間関係の奥深さを学び、心地よい自分の立ち位置を見つける。						
科目概要	医療に関わる「心理学」の基本的な知識と共に、自分を知り相手を理解するための知識を身に付けることを目標とする。						
到達目標	バランスの取れた、心の健康、身体の健康、経済的健康が実践できるようにする。 コミュニケーションから生まれる、人間関係を学ぶ。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出日については開校日に別途指示する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】日常生活の中で心地の良い場を発見することの大切さ 心地の良い人との対話の大切さを授業を通して肌で学ぶ		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	◆講師紹介 ◆授業の解説	講義	◆目的と目標の違いを解説 ◆自分自身の到達地点をイメージする ◆何に向かって学ぶのかを明確にする
2	◆心の健康について理解する	講義	◆目的と目標の違いを解説 ◆自分自身の到達地点をイメージする ◆何に向かって学ぶのかを明確にする
3	◆コミュニケーションとは…	講義	◆話すの基本 ◆聴くの基本 ◆ノンバーバルコミュニケーションとは
4	◆心の不思議発見	講義	◆思い込みについて ◆イメージについて ◆五感と心の関係
5	◆「え！こんなこと！！ホント！！！」	講義	◆ストレスについて ◆幸せとは何か ◆たくさんのことを記憶するコツ
6	◆人間の心理の奥深さを学ぶ	講義	◆人脈作りは、期間限定の勝負 ◆ほめる、ほめられる時の気持ち
7	◆喜びの瞬間に無意識にしまう心理	講義	◆ガッツポーズの心理 ◆国家資格合格の瞬間に思う事
8	まとめ	講義	1回～7回までの総復習を行う

科目名 (英)	ビジネスマナー I Business manners I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤林 殊巳
		授業形態	演習		無		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
講師紹介	幼稚園教諭を経て、大手新聞社資料記者として様々な角度から日本を見つめる。現在もカウンセラーとして教育業界に長く関わり、生涯学習教室を30年経営。講師として5校の教鞭をとるかたわら、三代続く家業の女将として経営にかかわる講師が行う安定感のある授業です。講師は、文部科学大臣より生涯スポーツ功労賞受賞。様々な角度からビジネスマナーが身につく講義です。						
目的	社会常識や人と接するときに良い印象を持ってもらえる言葉づかいや態度などのコミュニケーション能力を習得する。						
科目概要	社会人として必要な基礎力と行動力を身につけることを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会社で働くときに知っておいた方がよい社会常識がわかるようになる。 ・人と接するときに良い印象を持ってもらえる言葉づかいや態度などのコミュニケーション能力を身につける。 ・仕事をするとときに知っておいた方がよいビジネスマナーを身につける。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	社会人常識マナー公式テキスト(公益社団法人)全国経理教育界			事前事後 学習と その内容	【事前学習】:シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】各授業のプリント教材において内容の確認、見直しを行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	日本人の考え方	演習	人との調和を大切にする日本人の「和の精神」を学ぶ。
2	日本の生活と文化	演習	日本の行事を学ぶ ・就職活動について ・在留資格について正しい知識を学ぶ。
3	人間関係を築くコミュニケーションの基本	演習	コミュニケーションの基本を学ぶ ・よい身だしなみとは ・漢字の良い挨拶とは。
4	社内外の人とのコミュニケーション	演習	社内、社外の人とのコミュニケーションを学ぶ ・文書によるコミュニケーションを学ぶ。
5	職場のルールとトラブル	演習	社会人のタブー ・機密保持の重要性を学ぶ ・ハラスメントとは何かを学ぶ。
6	仕事をスムーズに行うためのマナー	演習	パソコンや携帯電話の取り扱いについて学ぶ。
7	日常生活のマナー	演習	食事のマナー ・近隣住人へのマナー ・公共のマナー ・交通機関でのマナーを学ぶ。
8	まとめ・定期テスト	演習	日本のサービスやおもてなしは、世界一といわれる理由など総復習を行う。

科目名 (英)	歯科医療概論 Dental Treatment Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯科医療について学び、歯科の重要性						
科目概要	歯科医療に関する全般的な知識、歯科に関する専門用語やチーム歯科医療での役割について理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム歯科医療が分かる。 ・歯科医療に携わる歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の役割が分かる。 ・使用する器具機材の名前が分かる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、レポート(課題提出)をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	めきめき本物の国語力が身につく～コミュニケーション技法			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 積極的に授業に参加できるようテキストを読み返しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	体験学習「積極的に参加した事を振り返る」 グループ学習「グループで対話し、意見をまとめる」						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	チーム歯科医療	演習	チーム歯科医療がわかる。 歯科医療に関わる業種の役割を理解する。
2	専門用語	演習	歯の名称、試式、方向用語がわかる。
3	材料と名前	演習	歯科で使用する材料と名前、使用用途についてレポートにまとめオリジナルのーとを作成する。
4	材料と名前	演習	歯科で使用する材料と名前、使用用途についてレポートにまとめオリジナルのーとを作成する。
5	永久歯の見分け方と特徴	演習	永久歯の前歯、小臼歯、大臼歯の特徴がわかる。 28本の永久歯の特徴を理解し、歯の模型を並べることができる。
6	永久歯の見分け方と特徴	演習	永久歯の前歯、小臼歯、大臼歯の特徴がわかる。 28本の永久歯の特徴を理解し、歯の模型を並べることができる。
7	永久歯の見分け方と特徴	演習	永久歯の前歯、小臼歯、大臼歯の特徴がわかる。 28本の永久歯の特徴を理解し、歯の模型を並べることができる。
8	歯の構造と補綴物の種類	演習	歯の構造がわかる。 う蝕の進行について理解する。
9	歯の構造と補綴物の種類	演習	補綴物の種類と製作順序が分かる。
10	歯の構造と補綴物の種類	演習	歯の構造がわかる。う蝕の進行について理解する。 補綴物の種類と製作順序が分かる。
11	石膏	演習	石膏の特徴について理解する。 石膏を使って模型を製作することができる。石膏の削り方が分かる。
12	石膏	演習	石膏の特徴について理解する。 石膏を使って模型を製作することができる。石膏の削り方が分かる。
13	補綴物の製作順序	演習	全部金属冠、全部床義歯、部分床義歯の製作順序が分かる。
14	補綴物の製作順序	演習	全部金属冠、全部床義歯、部分床義歯の製作順序が分かる。
15	自国の歯科事情について	演習	自国の歯科事情を調べてレポートにまとめる。 治療方法、士歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士について理解を深める。

科目名 (英)	天然歯形態 I Natural Teeth I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	吉田 真之佑
		授業形態	演習		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	2			前期	
講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし実例を交えながら、必要な基本的な法律の知識について授業する。						
目的	歯や口腔の概説、特に永久歯の形態的特徴を学び、実習授業においてその知識を活用できることを目標とする。						
科目概要	歯科医療の現場において大切なことは、ヒトの歯について、その歯が上下左右のどの位置にあるか判別することができることである。この授業においては、歯の種類ごとの特徴についてより深く理解する。						
到達目標	・前歯部、臼歯部のヒトの歯について、形態的特徴をそれぞれ説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「提出作品」を80点、レポートの提出を20点として100点満点とする。レポートの提出日については開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】プリント教材を使い専門用語の確認を推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				【事後学習】プリント教材の内容確認を中心に30分程度、毎日行うことを推進する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	角柱	演習	切り出しナイフの持ち方、ノグスの使い方、石膏棒の削り方が分かる。 角柱の握り方を理解し、握ることができる。
2	角柱	演習	切り出しナイフの持ち方、ノグスの使い方、石膏棒の削り方が分かる。 角柱の握り方を理解し、握ることができる。
3	11の構造	演習	11の隆線、結節、溝などの名称が分かる。
4	角柱	演習	切り出しナイフの持ち方、ノグスの使い方、石膏棒の削り方が分かる。 角柱の握り方を理解し、握ることができる。
5	角柱～Step1～2	演習	切り出しナイフの持ち方、ノグスの使い方、石膏棒の削り方が分かる。 角柱の握り方を理解し、握ることができる。
6	11デッサン	演習	唇側面、舌側、近心側、遠心側の形態が分かる。 最大豊隆部の位置、近心、遠心の特徴が分かる
7	Step3～5	演習	唇側面、舌側面、隅角部の形態を理解しながら彫刻することができる。
8	角柱	演習	寸法通りに角柱を彫ることができる。 切り出しナイフの持ち方、削る面を意識して彫刻することができる。 凹凸のないスムーズな面の削り方ができる。
9	角柱	演習	15分以内に角柱を彫ることができる。 スムーズな面で削ることができる。 正しい切り出しナイフの使い方ができる。
10	角柱～Step1～2	演習	角柱から11の外形を彫刻することができる。 11の特徴(外形、最大豊隆部、咬頭の位置)を理解しながら彫刻することができる。
11	11荒彫り Step3～Step5	演習	11の特徴(外形、最大豊隆部、咬頭の位置)を理解しながら彫刻することができる。
12	角柱	演習	11の歯型彫刻をするための、角柱を、寸法通りに削り出すことができる。 平な面を作ることができる。
13	11荒彫り Step1～Step5	演習	11の特徴(外形、最大豊隆部、咬頭の位置)を理解しながら彫刻することができる。
14	角柱～11彫刻 Step5まで	演習	90分の中で角柱からStep5までを完成させることができる。 11の特徴(外形、最大豊隆部、咬頭の位置)を理解しながら彫刻することができる。
15	11振り返り	演習	11特徴をレポートにまとめることができる。 外形、最大豊隆部、咬頭の位置を図や言葉で表現することができる。

科目名 (英)	咬合学基礎 I Science of Occlusion Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	演習		有		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科		単位	4			
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、全部床義歯製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯科技工で多く使用される材料であるワックスや金属、レジンについて、材料の取り扱いや補綴物の製作手順について習得する。						
科目概要	・補綴物の製作を通じて、歯科技工で多く使用される材料の性質や取り扱い方法について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部床義歯(総入れ歯)の製作手順の説明ができるようになる。 ・全部床義歯(総入れ歯)の人工歯排列の説明ができるようになる。 ・義歯の研磨が行えるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「提出作品」を80点、レポートの提出を20点として100点満点とする。レポートの提出日については開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習: 作業を示す専門用語の確認を20分程度推奨する。 事後学習: 作業工程のポイントについて繰り返し復習することを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	全部床義歯とは	演習	義歯とは何かを習得する。				
2	咬合採得と咬合床	演習	全部床義歯製作において大切な顎の位置決めについてを習得する。				
3	人工歯	演習	義歯の噛み合わせ作る人工歯と並ばせ方についてを習得する。				
4	歯肉形成	演習	義歯の歯肉の作り方と完成義歯への変換方法を習得する。				
5	流蠟・レジン・重合	演習	流蠟・レジン・重合操作や温度、時間を習得する。				
6	再装着	演習	義歯の再装着の意味や削合操作を習得する。				
7	研磨・まとめ	演習	義歯の研磨の仕方や保存方法を習得し確認試験へのまとめをおこなう。				
8	全部床義歯設計	演習	全部床義歯の設計を習得する。				
9	リリース・ブロックアウト	演習	全部床模型へのブロックアウト・リリースの操作を習得する。				
10	咬合器装着	演習	咬合床を作業模型に適合させ咬合器への装着を習得する。				
11	咬合器装着	演習	咬合床を咬合器に装着する操作を習得する。				
12	人工歯排列①	演習	前歯部人工歯の排列操作を習得する。				
13	人工歯排列②	演習	前歯部人工歯の排列操作を習得する。				
14	人工歯排列③	演習	臼歯部人工歯の排列操作を習得する。				
15	人工歯排列④	演習	臼歯部人工歯の排列操作を習得する。				

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
16	歯肉形成①	演習	唇側 頬側部の歯肉形成を習得する。
17	歯肉形成②	演習	唇側 頬側部の歯肉形成を習得する。
18	歯肉形成③	演習	舌側部の歯肉形成を習得する。
19	歯肉形成④	演習	口蓋ヒダの形成を習得する。
20	埋没準備	演習	蝤義歯埋没前の準備と一次埋没の操作を習得する。
21	レジン溜まり	演習	レジン溜まりの付与操作を習得する。
22	二次・三次埋没	演習	二次・三次埋没の操作を習得する。
23	流蝤	演習	蝤義歯の流ろう操作を習得する。
24	レジン填入	演習	レジン填入・重合を習得する。
25	掘り出し・再装着・削合	演習	掘り出し・再装着・削合を習得する。
26	研磨①	演習	形態修正・中研磨を習得する。
27	研磨②	演習	研磨専用器具(レーズ)を使用しての砂研磨を習得する。
28	研磨③	演習	研磨専用器具(レーズ)を使用しての砂研磨を習得する。
29	研磨④	演習	仕上げ研磨(ハンドエンジン使用)を習得する。
30	レポート製作	演習	全部床義歯の製作レポート製作し完成させる。。

科目名 (英)	歯冠修復基礎 I Crown Restoration Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目	鍛冶田 忠彦
		授業形態	演習		有	責任者	
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
単位		単位	4				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯科技工で多く使用される材料であるワックスや金属、レジジンについて、材料の取り扱いや補綴物の製作手順について習得する。						
科目概要	歯科医療に関わる基本操作について実習を通じて理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部金属冠の製作手順が分かる。 ・正しい器具の持ち方がわかる。 ・ワックス操作が行えるようになる。 						
評価方法	<p>学期に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学期に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として「提出作品」を80点、レポートの提出を20点として100点満点とする。レポートの提出日については開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし						
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	全部金属冠の製作の流れ	演習	印象採得から全部金属冠完成までの製作順序を理解する。				
2	印象採得	演習	歯冠修復で使用する印象材の種類について理解する。印象材の特徴を理解する。				
3	研究用模型	演習	研究用模型について理解する。研究用模型で製作するものを理解する。				
4	作業用模型	演習	作業用模型の種類について理解する。作業用模型の特徴を理解する。				
5	作業用模型・対合歯列模型製作	演習	石膏操作を習得する。模型作りを習得する。				
6	作業用模型・対合歯列模型製作	演習	ダウエルピンの植立位置・回転防止溝の位置を理解する。二次石膏の石膏操作を習得する。				
7	ワックス形成	演習	ワックス形成の種類と特徴を理解する。ワックス形成の順序を理解する。				
8	作業用模型・対合歯列模型製作	演習	ダウエルピンの植立位置・回転防止溝の位置を理解する。二次石膏の石膏操作を習得する。				
9	咬合器装着	演習	咬合器装着の方法を習得する。仮想咬合平面に合わせて模型を装着することができる。				
10	埋没	演習	スプルーの植立位置を理解する。埋没方法及び注意点について理解する。				
11	ワックス形成	演習	インナーワックスの取り扱い方法について理解する。ワックスアップの手順を習得する。				
12	ワックス形成	演習	インナーワックスの取り扱い方法について理解する。ワックスアップの手順を習得する。				
13	鋳造	演習	鋳造で使用する器具の使用法について理解する。還元炎を理解する。				
14	埋没前準備	演習	埋没の事前準備を理解する。(マージンしめ、スプルー植立)				
15	埋没	演習	クリストバライト埋没材を使用して埋没ができる。埋没する手順や方法を理解する。				
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
16	適合・接点	演習	適合で確認するときの注意事項について理解する。接点の位置や調節方法を習得する。				
17	鋳造	演習	鋳造するために必要な準備するものが分かる。フローパイプの使い方を習得する。				
18	鋳造	演習	鋳造するために必要な準備するものが分かる。フローパイプの使い方を習得する。				
19	研磨	演習	研磨の目的を理解する。研磨で使用する器具の使い方を理解する。				
20	掘り出し・適合	実習	鋳造体の掘り出し方、スプルーカット方法を習得する。適合の確認方法、調整方法を習得する。				
21	適合・形態修正	実習	適合の確認方法、調整方法を習得する。スプルーのカット後の修正方法を習得する。				
22	適合・形態修正	演習	形を変えずに形態修正する方法を習得する。接点の調整方法を習得する。形態修正に使用する器具の使用法を習得する。				
23	研磨	演習	研磨で使用するバーやポイントの使う順番を理解する。ハンドエンジンの使用法を理解する。				
24	粗研磨	演習	ハンドエンジンの使用法を習得する。ペーパーコーンの使用法を習得する。				
25	粗研磨	演習	ハンドエンジンの使用法を習得する。ペーパーコーンの使用法を習得する。				
26	中研磨	演習	シリコンポイントやホイールの使用法を習得する。溝の研磨方法を取得する。				
27	中研磨	演習	シリコンポイントやホイールの使用法を習得する。溝の研磨方法を取得する。				
28	仕上げ研磨	演習	ブラシやチャモイスホイールの使用法を習得する。溝の研磨方法を習得する。				
29	仕上げ研磨	演習	ブラシやチャモイスホイールの使用法を習得する。溝の研磨方法を習得する。				
30	研磨完成	演習	研磨完成できる。模型やクラウンを綺麗にし提出することができる。				

科目名 (英)	医療機器・材料加工実習 Medical Equipment and Material Processing Practice	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子 鍛冶田 忠彦
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
単位		単位	4				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が 歯冠修復技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯科でよく使われる材料に触れ、特性を理解しながらワックスや金属、レジンについて、製作物作成を通じてそれらの取り扱いを習得する。						
科目概要	歯科技工で使用されるプラスチック加工技術を活用して、様々な補綴物の製作を行いより深く歯科技工技術を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アルジネート印象材の特性を理解する。 ・ワックスの特性を理解する。 ・ワックスアップから研磨までの工程の流れを理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を80点、レポートの提出を20点として100点満点とする。レポートの提出日については開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】作業工程のポイントについてレポートにまとめる。		
参考図書	授業内で紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習で使用する材料	演習	実習で使用する材料の特徴や使い方を理解する。
2	実習で使用する材料	演習	実習で使用する材料の特徴や使い方を理解する。
3	道具の使い方	演習	ガスバーナー、インスツルメントの使用方法を理解する。 円柱でワックストレーニングを習得する。
4	ワックス操作(円柱)	演習	インスツルメントを使用してのワックス操作を習得する。 ワックスの温度調整を意識してワックス操作を習得する。
5	アルジネート印象材	演習	アルジネート印象材の特性を理解する。 アルジネート印象材の練り方を理解する。
6	アルジネート印象材とワックスアップ	演習	硬石膏の特性を理解する。石膏に対して水の量(混水比)を求めることができる。 真空練和機の使い方と、印象材に石膏注入の方法が分かる。
7	リング製作のデザイン、ワックスアップ	演習	リングのデザインを考えることができる デザインしたものをワックスを使って形にすることができる。
8	ワックスアップ	演習	リングのデザインを考えることができる デザインしたものをワックスを使って形にすることができる。
9	ワックスアップから研磨までの製作手順について(オンデマンド)	演習	製作手順を理解する。
10	埋没前準備	演習	ワックスの表面をスムーズな面になるように整える技術を習得する。
11	スプルー植立、埋没	演習	ワックスで製作したリングにスプルー植立し埋没作業を習得する。
12	埋没前準備～埋没までの振り返り	演習	スプルー植立の位置、埋没材の取り扱い方、埋没するときの注意事項をレポートにし、オリジナルのノートを製作することができる。
13	鋳造～掘り出し、形態修正(オンデマンド)	演習	遠心鋳造機の使い方、金属の溶かし方、金属を鋳込むタイミング、掘り出し方法、形態修正を習得する。
14	鋳造	演習	鋳造操作の手順を理解してリングの鋳造作業を習得する。
15	掘り出し・スプルーカット	演習	鋳造したものを掘り出す方法がわかる。 リングを傷つけずにスプルーをカットする方法を習得する。

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
16	鑄造～掘り出し、形態修正の振り返り	演習	遠心鑄造機の使い方、金属の溶かし方、金属を鑄込むタイミング、掘り出し方法、形態修正についてオリジナルのノートを製作することができる。
17	研磨 (オンデマンド)	演習	研磨の流れを理解する。ハンドエンジンの使い方、ポイントの使う手順について理解する。
18	研磨作業①	演習	ハンドエンジンの使い方を習得する。ポイントの使い方や磨き方を習得する。
19	研磨作業②	演習	ハンドエンジンの使い方を習得する。ポイントの使い方や磨き方を習得する。
20	研磨	演習	ハンドエンジンの使い方、ポイントを使う順番、研磨の注意事項をレポートにし、オリジナルのノートを作成することができる。
21	ワックス	演習	ワックスの特性、操作方法を理解する。
22	金属チャーム(レジン詰める) ワックス操作	演習	ゴム枠の中にワックスを注入し、ワックスパターンの製作方法を習得する。バリの取り方を習得する。ワックスの適正温度を理解する。
23	スプルー植立、埋没	演習	ワックスパターンにスプルーを植立する位置を習得する。円錐台にワックスパターンを植立することができる。気泡を入れずに埋没する方法を取得する。
24	ワックスアップ～埋没までの振り返り	演習	ワックスアップ～埋没までの操作手順と注意事項をレポートにし、オリジナルのノートを製作することができる。
25	研磨の目的 (オンデマンド)	演習	なぜ研磨が必要なのか理解する。
26	鑄造	演習	遠心鑄造機の準備ができる。還元炎の作り方を習得する。
27	研磨	演習	形態修正の方法を習得する。研磨するためのポイントを使用する順番を習得する。
28	レジン (オンデマンド)	演習	レジンの特性を理解する。歯科で使用するレジンの種類を理解する。
29	レジン	演習	即時重合レジンの使い方・注意事項を理解する。筆を固めずに操作できる方法を習得する。
30	研磨・完成	演習	金属・レジンを研磨し完成することができる。

科目名 (英)	歯科材料学 I Dental Materials I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
単位			1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科技工において使用する石膏や印象材、ワックス、レジン、セラミックの特性について理解する。						
科目概要	歯科医療で用いる様々な材料を中心に、実際の歯科材料を取り扱いながら、それぞれの特性を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科材料の種類を説明できるようになる。 ・歯科材料の正しい取り扱い方法の説明ができるようになる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。レポートを100点満点として評価する。レポートの提出日については開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科の材料について	講義	歯科で使用する材料の種類を理解し、実際の義歯や鑄造冠などに触れることで、構造や役割について習得する。
2	石膏について①	講義	石膏の種類や性質について理解し、用途に合わせた石膏について習得する。
3	石膏について②	講義	石膏についての特性や操作方法について習得する。
4	埋没材について①	講義	埋没材の種類や特徴について理解し、用途に合わせた埋没材について習得する。
5	埋没材について②	講義	埋没材の種類や特徴、操作方法について習得する。
6	印象材について①	講義	歯科で使用される印象材の種類とそれぞれの特徴について理解し、用途に合わせた印象材について習得する。
7	印象材について②	講義	印象材による違いや特性、操作方法について習得する。
8	まとめ講義	講義	石膏、埋没材、印象材についてのまとめ講義を通じて、理解を深める。

科目名 (英)	解剖学基礎 I Anatomy Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
単位		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし実例を交えながら、必要な基本的な法律の知識について授業する。						
目的	歯や口腔の概説、特に永久歯の形態的特徴を学び、実習授業においてその知識を活用できることを目標とする。						
科目概要	歯科医療の現場において大切なことは、ヒトの歯について、その歯が上下左右のどの位置にあるか判別することができることである。この授業においては、歯の種類ごとの特徴についてより深く理解する。						
到達目標	前歯部、臼歯部のヒトの歯について、形態的特徴をそれぞれ説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、レポート60点、プレゼンテーション40点の合計100点満点として評価する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】プリント教材を使い専門用語の確認を推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				【事後学習】プリント教材の内容確認を中心に30分程度、毎日行うことを推進する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	配信授業 授業のねらいと授業の進め方について説明する。プレゼンテーションの準備を行う。
2	天然歯の条件	講義	配信授業 プレゼンテーションの準備について確認する。資料を探すキーワードを確認する。
3	変わった形の天然歯	講義	対面授業 前回授業の振り返りと、天然歯についてのワークを通じて知識の確認を行う。
4	歯が生えるまでのプロセス	講義	対面授業 前回授業の振り返りと、天然歯についてのワークを通じて知識の確認を行う。
5	中間フィードバック	講義	配信授業 プレゼンテーションの中間報告フィードバックを通じて、作り物の歯と天然歯を見分ける。
6	天然歯と作り物の歯の違いとは	講義	配信授業 作り物の歯と天然歯を見分けるポイントを確認し、最終プレゼンテーションの準備を行う。
7	プレゼンテーション 準備と発表	講義	対面授業 プレゼンテーション準備と発表を行う。
8	プレゼンテーション 準備と発表	講義	対面授業 プレゼンテーションを行う。

科目名 (英)	生理学基礎 I Physiology Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	駒井 啓一
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士・歯科衛生士のダブルライセンスを取得し歯科業界に27年歯科業界に携わっている講師が両方の観点から生理学の大切さと演習を交えて授業を行う。						
目的	生理学に関心を持ち学ぶことにより、各臓器の働きと他臓器との結びつきを理解する。						
科目概要	生体の様々な臓器や器官の役割・機能、構造について理解することを目標とする。						
到達目標	生理学での専門用語や意味を学び、理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出日については開校日に別途指示する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	生理学の概要	講義	生理学とは何かとこれからの内容を説明します。
2	体温	講義	産生やエネルギーの代謝、発熱などを学びます。
3	感覚 ①	講義	皮膚や特殊感覚器、平衡感覚器を学びます。
4	感覚 ②	講義	平衡聴覚器や味覚器・嗅覚器を学びます。
5	呼吸 ①	講義	呼吸の意義や構成について学びます。
6	呼吸 ②	講義	上気道・下気道・肺の仕組みについて学びます。
7	循環 ①	講義	血管の構造・機能について学びます。
8	振り返り	講義	1～7回目までの授業の振り返り 7回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	感染症基礎 I Infection Basic I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	駒井 啓一
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士・歯科衛生士のダブルライセンスを取得し歯科業界に27年歯科業界に携わっている講師が両方の観点から感染症の大切さと演習を交えて授業を行う。						
目的	医療における感染管理、感染対策の知識を持ち、医療に従事するチームの役割を果たすとともに自身の健康を守る						
科目概要	感染とは何か、消毒、滅菌、除菌など言葉があふれているがそれぞれの意味と感染管理、感染予防に必要な知識を習得する						
到達目標	感染する原因と対策を理解する。 ・歯科医療における感染源や感染しやすい感染症について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	感染症について	講義	感染症の理解。細菌とウィルスの違い。感染予防に必要なことについて理解する。
2	感染症の種類と病態	講義	感染症の種類と病態を知り、予防の大切さを認識する。
3	消毒、滅菌、除菌、などの用語の違い	講義	消毒とは？滅菌とは？除菌とは？それぞれの意味と実施方法や目的を知る。
4	感染管理は医療において重要 <small>イリョウ</small>	講義	感染管理が医療においてなぜ重要かを理解する。
5	感染管理の具体的な実施方法	講義	グローブ・手洗いの実施方法。簡易消毒の実施方法 針などの器具の処理について理解する。
6	滅菌消毒の実際	講義	滅菌機器の種類と効果、使用方法 消毒液の種類と効果、消毒の実施方法について理解する。
7	スタンダードプリコーションについて	講義	スタンダードプリコーションとは？ どんなことが必要か？事例検討しながら理解する。
8	振り返り	講義	1～7回目までの授業の振り返り 7回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	多職種連携医療 Interprofessional Collaboration	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	デンタルサポート(株) 城明妙
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2				
講師紹介	歯科衛生士であり現在は教育研修を主体として業務を実施中。訪問歯科、矯正歯科、市町村保健センター、企業検診、その他多くの歯科医療関係職に従事した経験を持つ。						
目的	医療を円滑に進めるための職種間の連携について理解することを目的とする。						
科目概要	チーム医療でのそれぞれの職種の役割と連携日て理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携の意義について理解し説明することができる。 ・チーム医療の中で、多職種に対する理解を深める。 ・チームワークの重要性を説明することができる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	多職種連携の必要性とチーム医療	演習	他職種連携の基礎について理解する。
2	多職種連携のベース	演習	多職種連携に必要な連携作りについて理解する。
3	振り返り	演習	レポートをまとめる
4	地域医療・福祉の連携	演習	地域医療・福祉における多職種連携について理解する。
5	歯科の連携	演習	歯科医療の連携について理解する。
6	振り返り	演習	レポートをまとめる
7	看護と理学療法の連携	演習	看護師と理学療法士の連携を理解する。
8	臨床福祉と言語聴覚士の連携	演習	社会福祉士と言語聴覚士の連携を理解する。 言語障害、嚥下障害における多職種連携を理解する。
9	振り返り	演習	レポートをまとめる
10	作業療法士と臨床検査技師の連携	演習	作業療法士と臨床検査技師の連携を理解する。 治療における多職と関わりと連携を理解する。
11	作業療法士と臨床検査技師の連携	演習	作業療法士と臨床検査技師の連携を理解する。 治療における多職と関わりと連携を理解する。
12	振り返り	演習	レポートをまとめる
13	これからの医療人	演習	これから目指す医療人について理解する。
14	まとめ	演習	アルジネート印象材、歯科用石膏を用いた印象採得実習
15	振り返り	演習	レポートをまとめる

科目名 (英)	専門用語講座 I	年次	1	選択科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
	Technical Terms I	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	専門用語を読む、書く、意味を理解することで、講義や実習での授業が理解できるようになることを目標とする。						
科目概要	医療で使用する専門用語の読み方や意味を理解することを目標とする。						
到達目標	専門用語を読む、書く、意味が分かる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】作業を示す専門用語の確認を20分程度推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。				【事後学習】作業工程のポイントについて繰り返し復習することを推奨する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯周組織の名称	講義	歯周組織の名称や特徴を理解する。
2	歯の名称	講義	歯の名称や特徴を理解する。
3	補綴物の種類	講義	補綴物の種類について理解する。
4	振り返り	講義	歯周組織の名称、歯の名称、補綴物の種類について理解度を確認する。
5	模型製作	講義	模型製作に必要な器具、機材の名称と用途について理解する。
6	鑄造操作	講義	鑄造で使用する器具機材の名前、用途について理解する。 鑄造する作業工程について理解する。
7	振り返り	講義	模型製作、鑄造操作について理解度を確認する。
8	無歯顎ランドマーク	講義	ランドマークの名前と特徴について理解する。
9	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
10	振り返り	講義	ランドマーク、専門用語について理解度を確認する。
11	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
12	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
13	振り返り	講義	専門用語について理解度を確認する。
14	練習問題	講義	練習問題を解きながら専門用語を理解する。
15	練習問題	講義	練習問題を解きながら専門用語を理解する。

科目名 (英)	基礎学力講座 Basic Academic Proficiency	年次	1	選択科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2				
講師紹介	歯科技士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	専門用語を読む、書く、意味を理解することで、講義や実習での授業が理解できるようになることを目標とする。						
科目概要	医療で使用する専門用語の読み方や意味を理解することを目標とする。						
到達目標	専門用語を読む、書く、意味が分かる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】作業を示す専門用語の確認を20分程度推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。				【事後学習】作業工程のポイントについて繰り返し復習することを推奨する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	漢字の読み書き	講義	ひらがなを漢字に直す。漢字を読む。文章の中において適切な漢字を選択して書くことができる。
2	漢字の読み書き	講義	ひらがなを漢字に直す。漢字を読む。文章の中において適切な漢字を選択して書くことができる。
3	同義語・反対語	講義	同義語と反対語について理解する。
4	同義語・反対語	講義	同義語と反対語について理解する。
5	言葉の使い方	講義	主語と述語との関係、就職と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割段落の役割について理解する。
6	国語まとめ	講義	練習問題を解き理解度を確認する。
7	計算	講義	小数点の計算について理解する。
8	計算	講義	割合の計算について理解する。
9	文章問題	講義	求め方と答えを式や言葉を使って記述することができる。
10	文章問題	講義	求め方と答えを式や言葉を使って記述することができる。
11	データ	講義	データの分類整理、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ることができる。
12	データ	講義	データの分類整理、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ることができる。
13	データ	講義	データの分類整理、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ることができる。
14	算数まとめ	講義	練習問題を解き理解度を確認する。
15	練習問題	講義	練習問題を解き理解度を確認する。

科目名 (英)	導入教育Ⅱ Introductory Education II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	演習		無		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯冠修復物の種類と特徴について理解する。						
科目概要	後期で学ぶカリキュラムの科目の目的を理解し、専門教育への移行をスムーズにすることを目標とする。						
到達目標	・修復物の種類や特徴がわかる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポート(課題提出)をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 ■ 筆記試験 □ 頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】 専門用語を中心に授業の復習をすると良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	要件について①	演習	修復物を口腔内にいれるためにはどのようなことが大切なのか？ 生物学的について理解する。
2	要件について②	演習	修復物を口腔内にいれるためにはどのようなことが大切なのか？ 構造力学的について理解する。
3	振り返り	演習	専門用語の読み方と意味を調べてレポートにまとめる。
4	要件について③	演習	修復物を口腔内にいれるためにはどのようなことが大切なのか？ 構造力学的について理解する。
5	要件について④	演習	修復物を口腔内にいれるためにはどのようなことが大切なのか？ 化学的・審美的について理解する。
6	振り返り	演習	全部金属冠についてレポートにまとめる。
7	全部金属冠	演習	全部金属冠の種類、特徴を理解する。
8	部分被覆冠	演習	部分被覆冠の種類と特徴を理解する。
9	振り返り	演習	部分被覆冠についてレポートにまとめる。
10	個人トレー・個歯トレー	演習	個人トレー・個歯トレーについて理解する。 特徴、目的、製作方法
11	プロビジョナルレストレーション	演習	プロビジョナルレストレーションについて理解する。 使用目的、材料、要件、製作方法。
12	振り返り	演習	インレーについてレポートにまとめる。
13	まとめ	演習	振り返り
14	試験対策	演習	重要ポイントの振り返り
15	振り返り	演習	研究用模型、作業用模型、印象用トレーについてレポートにまとめる。

科目名 (英)	コミュニケーション基礎Ⅱ Communication SkillsⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤林 殊巳
		授業形態	演習		無		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	幼稚園教諭を経て、大手新聞社資料記者として様々な角度から日本を見つめる。現在もカウンセラーとして教育業界に長く関わり、生涯学習教室を30年経営。講師として5校の教鞭をとるかたわら、三代続く家業の女将として経営にかかわる講師が行う安定感のある授業です。講師は、文部科学大臣より生涯スポーツ功労賞受賞。様々な角度からビジネスマナーが身につく講義です。						
目的	自己信頼を身につけるために、自己理解と他者理解を積み重ねて、コミュニケーション技法を習得する。						
科目概要	自己理解、他者理解、自己信頼を育てる為に、言葉を使って自分なりに考え、他者と考えを通じ合わせ「聞く」「話す」「読む」「書く」をグループワークを通じて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、話す、読む、書くの4つの技法を用いて、医療従事者として問題を解決できるコミュニケーション力を身につけることができる。 ・自己理解、他者理解を積み重ね、自己を信頼できるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、レポート(課題提出)をそれぞれ100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	めきめき本物の国語力が身につく～コミュニケーション技法			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 積極的に授業に参加できるようテキストを読み返しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	体験学習「積極的に参加した事を振り返る」 グループ学習「グループで対話し、意見をまとめる」						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	コミュニケーションとは	講義	人と人の距離感と言葉の表現力を身につける。
2		実習	
3	聞き上手	講義	人の考えを受け入れる方法を身につける。
4		講義	
5	コミュニケーション技法	講義	距離の取り方を身につける。
6		講義	
7	コミュニケーションゲーム	講義	ゲームを通してコミュニケーションの方法を身につける。
8	まとめ	講義	1～7回までの振り返り

科目名 (英)	ビジネスマナーⅡ Business mannersⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤林 殊巳
		授業形態	演習		無		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	幼稚園教諭を経て、大手新聞社資料記者として様々な角度から日本を見つめる。現在もカウンセラーとして教育業界に長く関わり、生涯学習教室を30年経営。講師として5校の教鞭をとるかたわら、三代続く家業の女将として経営にかかわる講師が行う安定感のある授業です。講師は、文部科学大臣より生涯スポーツ功労賞受賞。様々な角度からビジネスマナーが身につく講義です。						
目的	社会常識や人と接するときに良い印象を持ってもらえる言葉づかいや態度などのコミュニケーション能力を習得する。						
科目概要	社会人として必要な基礎力と行動力を身につけることを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会社で働くときに知っておいた方がよい社会常識がわかるようになる。 ・人と接するときに良い印象を持ってもらえる言葉づかいや態度などのコミュニケーション能力を身につける。 ・仕事をするとときに知っておいた方がよいビジネスマナーを身につける。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	社会人常識マナー公式テキスト(公益社団法人)全国経理教育界			事前事後 学習と その内容	【事前学習】:シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】各授業のプリント教材において内容の確認、見直しを行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	日本人の考え方	演習	人との調和を大切にする日本人の「和の精神」を学ぶ。
2	日本の生活と文化	演習	日本の行事を学ぶ ・就職活動について ・在留資格について正しい知識を学ぶ。
3	人間関係を築くコミュニケーションの基本	演習	コミュニケーションの基本を学ぶ ・よい身だしなみとは ・漢字の良い挨拶とは。
4	社内外の人とのコミュニケーション	演習	社内、社外の人とのコミュニケーションを学ぶ ・文書によるコミュニケーションを学ぶ。
5	職場のルールとトラブル	演習	社会人のタブー ・機密保持の重要性を学ぶ ・ハラスメントとは何かを学ぶ。
6	仕事をスムーズに行うためのマナー	演習	パソコンや携帯電話の取り扱いについて学ぶ。
7	日常生活のマナー	演習	食事のマナー ・近隣住人へのマナー ・公共のマナー ・交通機関でのマナーを学ぶ。
8	まとめ	演習	日本のサービスやおもてなしは、世界一といわれる理由など総復習を行う。

科目名 (英)	微生物学基礎 Microbiology Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	駒井 啓一
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士・歯科衛生士のダブルライセンスを取得し歯科業界に27年歯科業界に携わっております。両方の観点から微生物の大切さと演習を交えて授業を行う。						
目的	微生物学に関心を持ち学ぶことにより、疾患や感染症との結びつきを理解する。						
科目概要	微生物における知識と疾患との関係を理解することを目標とする。						
到達目標	授業内での専門用語や意味を学び、理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出日については開校日に別途指示する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	微生物学の概要	講義	疾病と微生物の関係や歴史についてを習得する。
2	微生物の病原性 ①	講義	微生物の分類や形態・構造を習得する。
3	微生物の病原性 ②	講義	細菌の形態や大きさを習得する。
4	微生物の病原性 ③	講義	マイコプラズマ属・スピロヘータ・リケッチア等を習得する。
5	微生物の病原性 ④	講義	ウイルス・その他の微生物について習得する。
6	口腔微生物の病原性	講義	口腔内の微生物やプラークについて習得する。
7	化学療法・細菌培養	講義	化学療法の種類や特徴・培養や顕微鏡観察について習得する。
8	振り返り	講義	1～7回目までの授業の振り返り 7回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	医療概論 Medical Treatment Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	デンタルサポート(株) 城明妙
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	歯科衛生士であり現在は教育研修を主体として業務を実施中。訪問歯科、矯正歯科、市町村保健センター、企業検診、その他多くの歯科医療関係職に従事した経験を持つ。						
目的	医療の概要がわかり、日本の保険医療サービス、医療保険の仕組みなどについて理解する。						
科目概要	医療に関する全般的な知識、専門用語やチーム医療での役割について理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療事務に必要な、歯科治療の流れを理解する。・医療保険の仕組みを理解する。 ・公費負担について理解する。 ・カルテ記載がスムーズに実施できるようにする 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	医療を支える職種とチーム医療	演習	チーム医療、コメディカルの役割について理解する。
2	保険制度の始まりと医療システム	演習	医療サービスの在り方を理解について理解する。
3	日本医療保険制度	演習	医療保険せいどとその仕組みを理解する。
4	医療の新しい形態	演習	少子高齢化の中での医療や介護の仕組みを理解する。
5	医療の歴史	演習	医療の歴史を知ることで現在、未来の医療について考える。
6	医療の発展	演習	医療の各分野の発達について学び、現在の医療の在り方について理解する。
7	現代の人口環境と健康問題	演習	人口環境と健康問題について地域差に着目して理解する。
8	まとめ講義	演習	今までの講義の振り返り

科目名 (英)	インターンシップⅡ InternshipⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が歯科技工所見学歯科技工業界に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	日本の歯科業界の現場を見学し、日本の歯科医療の技術レベルや働き方を理解する。						
科目概要	日本における代表的な歯科技工所の見学を通じて、日本の歯科医療技術のレベルを理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歯科技工士の働き方について説明できるようになる。 日本の歯科技工技術レベルについて説明できるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、各回レポートの評価を100点満点とし、平均点にて行う。レポートの提出日については開講日に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】訪問する企業、就業体験企業のホームページや求人票の確認を推奨する。 【事後学習】得られた経験をレポートへまとめ、経験を振り返る。		
参考図書	必要なときに紹介します。						
特記事項	見学及び就業体験の際には著作権のある資料を除き、許可を得て写真撮影を行い、担当者からのフィードバックも残しておくこと。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	歯科技工所見学①	演習	歯科技工所の見学を通じて臨床現場で働くことを理解し、将来の自分のイメージを持つことができる。				
2	歯科技工所見学①	演習	歯科技工所の見学を通じて臨床現場で働くことを理解し、将来の自分のイメージを持つことができる。				
3	歯科技工所見学①	演習	歯科技工所の見学を通じて臨床現場で働くことを理解し、将来の自分のイメージを持つことができる。				
4	歯科技工業界の現状①	講義	企業の方の講演を通じて自身の課題、将来像について理解し、レポート作成を行うことができるようになる。				
5	歯科技工業界の現状②	講義	企業の方の講演を通じて自身の課題、将来像について理解し、レポート作成を行うことができるようになる。				
6	歯科技工業界の現状③	講義	企業の方の講演を通じて自身の課題、将来像について理解し、レポート作成を行うことができるようになる。				
7	歯科技工業界の現状④	講義	企業の方の講演を通じて自身の課題、将来像について理解し、レポート作成を行うことができるようになる。				
8	歯科技工業界の現状⑤	講義	企業の方の講演を通じて自身の課題、将来像について理解し、レポート作成を行うことができるようになる。				

科目名 (英)	天然歯形態Ⅱ Natural TeethⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	吉田 真之佑
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし実例を交えながら、必要な基本的な法律の知識について授業する。						
目的	歯や口腔の概説、特に永久歯の形態的特徴を学び、実習授業においてその知識を活用できることを目標とする。						
科目概要	歯科医療の現場において大切なことは、ヒトの歯について、その歯が上下左右のどの位置にあるか判別することができることである。この授業においては、歯の種類ごとの特徴についてより深く理解する。						
到達目標	前歯部、臼歯部のヒトの歯について、形態的特徴をそれぞれ説明することができる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、レポート60点、プレゼンテーション40点の合計100点満点として評価する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】プリント教材を使い専門用語の確認を推奨する。 【事後学習】プリント教材の内容確認を中心に30分程度、毎日行うことを推進する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	演習	石膏棒の彫り方について。切り出しナイフ、ノギスの使い方。
2	11歯型彫刻	演習	11の大きさに合わせて削る角柱の彫り方修得する。
3	11歯型彫刻	演習	面取りStep1～Step2。唇側面、と舌側面の面取り方法を修得する。
4	11歯型彫刻	演習	面取りがStep3～Step4。ラインアングルの形成方法を修得する。
5	11歯型彫刻	演習	仕上げ彫刻。見本模型を見ながら、溝や歯頸線、隆線の形成方法を修得する。
6	11歯型彫刻	演習	仕上げ彫刻。見本模型を見ながら、溝や歯頸線、隆線の形成方法を修得する。
7	16歯型彫刻	演習	16の大きさに合わせて削る角柱の彫り方修得する。
8	16歯型彫刻	演習	面取りStep1～Step2。外形の大まかな形の形成方法を修得する。
9	16歯型彫刻	演習	面取りStep3～Step4。外形の大まかな形の形成方法を修得する。
10	16歯型彫刻	演習	面取りStep3～Step4。外形の大まかな形の形成方法を修得する。
11	16歯型彫刻	演習	荒彫りStep1～Step3。咬頭頂、4隅角の修正方法を修得する。
12	16歯型彫刻	演習	荒彫りStep4～Step5。咬頭頂、4隅角の修正方法を修得する。
13	16歯型彫刻	演習	16咬合面のデッサン。 仕上げ彫刻。主構と副溝、主隆線と副隆線の彫り方を修得する。
14	16歯型彫刻	演習	16咬合面のデッサン。 仕上げ彫刻。主構と副溝、主隆線と副隆線の彫り方を修得する。
15	16歯型彫刻	演習	仕上げ彫刻。主構と副溝、主隆線と副隆線の彫り方を修得する。 16歯型彫刻完成。

科目名 (英)	咬合学基礎Ⅱ		年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
	Science of Occlusion BasicⅡ		授業形態	演習		有		
	学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	60	授業回数	30	開講区分	
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、部分床義歯製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。							
目的	歯科技工で多く使用される材料であるワックスや金属、レジンについて、材料の取り扱いや補綴物の製作手順について習得する。							
科目概要	・補綴物の製作を通じて、歯科技工で多く使用される材料の性質や取り扱い方法について理解する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部床義歯(総入れ歯)の製作手順の説明ができるようになる。 ・全部床義歯(総入れ歯)の人工歯排列の説明ができるようになる。 ・義歯の研磨が行えるようになる。 							
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「提出作品」を80点、レポートの提出を20点として100点満点とする。レポートの提出日については開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>							
教科書	なし				事前事後 学習と その内容	事前学習: 作業を示す専門用語の確認を20分程度推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。					事後学習: 作業工程のポイントについて繰り返し復習することを推奨する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。							
授 業 計 画								
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容					
1	全部床義歯模型製作	演習	全部床義歯の上下顎模型(402U・402L)の石膏注入を通じて石膏注入を習得する。					
2	リリース・ブロックアウト	演習	全部床模型に咬合床設計、ブロックアウトを習得する。					
3	自宅課題	演習	1～3 人工歯排列トレーニングを習得する。					
4	基礎床の圧接	演習	既製咬合床を作業模型に適合させる。					
5	咬合器装着	演習	既製咬合床を咬合器に装着する操作を習得する。					
6	自宅課題	演習	3～1 1～3 人工歯排列トレーニングを習得する。					
7	人工歯排列①	演習	前歯部人工歯の排列操作を習得する。					
8	人工歯排列②	演習	前歯部人工歯の排列操作を習得する。					
9	自宅課題	演習	7～4 4～7 人工歯排列トレーニングを習得する。					
10	人工歯排列③	演習	臼歯部人工歯の排列操作を習得する。					
11	人工歯排列④	演習	臼歯部人工歯の排列操作を習得する。					
12	自宅課題	演習	無歯顎の口腔内のランドマークについてレポート製作する。					
13	歯肉形成①	演習	唇側 頬側部の歯肉形成を習得する。					
14	歯肉形成②	演習	舌側部の歯肉形成を習得する。					
15	自宅課題	演習	咬合採得・咬合床についてレポートを製作する。					

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
16	歯肉形成③	演習	口蓋ヒダの形成を習得する。
17	埋没準備	演習	蝸義歯埋没前の準備と一次埋没の操作を習得する。
18	自宅課題	演習	人工歯排列・歯肉形成についてレポートを製作する。
19	レジン溜まり	演習	レジン溜まりの付与操作を習得する。
20	二次・三次埋没	演習	二次・三次埋没の操作を習得する。
21	自宅課題	演習	加熱重合レジンとレジン填入法についてレポートを製作する。
22	流蝓	演習	蝸義歯の流ろう操作を習得する。
23	レジン填入	演習	レジン填入・重合を習得する。
24	自宅課題	演習	全部床義歯の削合(咬合様式)についてレポートを製作する。
25	掘り出し・再装着・削合	演習	掘り出し・再装着・削合を習得する。
26	荒研磨	演習	形態修正・荒研磨を習得する。
27	自宅課題	演習	全部床義歯の削合(咬合小面)・研磨についてレポートを製作する。
28	研磨①	演習	研磨専用器具(レーズ)を使用しての砂研磨を習得する。
29	研磨②	演習	仕上げ研磨(ハンドエンジン使用)を習得する。
30	レポート製作	演習	全部床義歯の製作レポート製作し完成させる。。

科目名 (英)	Crown Restoration Basic II	年次	1	必修科目	有	実務経験	有	科目 責任者	鍛冶田 忠彦
		授業形態	演習	時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	4						
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が 必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。								
目的	歯科技工で多く使用される材料であるワックスや金属、レジンについて、材料の取り扱いや補綴物の製作手順について習得する。								
科目概要	歯科医療に関わる基本操作について実習を通じて理解することを目標とする。								
到達目標	・インレー・テンポラリークラウンの製作工程がわかる。 ・正しい器具の持ち方がわかる。 ・ワックスやレジン操作が行えるようになる。								
評価方法	学期に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学期に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「提出作品」を80点、レポートの提出を20点として100点満点とする。レポートの提出日については開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート								
教科書	なし								
参考図書	必要に応じて紹介します。								
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。								
授 業 計 画									
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容						
1	模型製作(石膏注入)	演習	作業用模型の製作方法について理解する。 石膏の操作方法を習得する。						
2	模型製作(石膏注入)	演習	作業用模型の製作方法について理解する。 石膏の操作方法を習得する。						
3	模型製作(基底面～ダウエルピン植立)	演習	トリマーの使い方を習得する。基底面を平らに削り、耐水ペーパーのかけ方を習得する。ダウエルピンの植立位置を習得する。回転防止溝を理解する。						
4	模型製作(基底面～ダウエルピン植立)	演習	トリマーの使い方を習得する。基底面を平らに削り、耐水ペーパーのかけ方を習得する。ダウエルピンの植立位置を習得する。回転防止溝を理解する。						
5	模型製作(二次石膏)	演習	二次石膏の操作方法を習得する。模型に二次石膏が付着しない操作方法を習得する。						
6	模型製作(形態修正)	演習	形態修正の方法を習得する。必要以上に模型を削らない方法を習得する。						
7	模型製作(形態修正)	演習	形態修正の方法を習得する。必要以上に模型を削らない方法を習得する。						
8	ワックスアップ	演習	ワックスアップの操作方法を習得する。(薄く均一にワックスを盛る方法、ワックスをも盛り上げる方法)						
9	ワックスアップ	演習	ワックスアップの操作方法を習得する。(薄く均一にワックスを盛る方法、ワックスをも盛り上げる方法)						
10	スプルー植立～埋没	演習	スプルーを植立する位置を習得する。埋没操作を習得する。						
11	鑄造・石膏注入	演習	鑄造操作を習得する。還元炎の作り方を習得する。 作業用模型と研究用模型の石膏注入方法を習得する。						
12	形態修正～研磨	演習	形態修正の方法を習得する。研磨する手順を習得する。 作業用模型と研究用模型の石膏注入方法を習得する。						
13	研磨完成	演習	研磨手順を習得する。						
14	研磨完成	演習	研磨手順を習得する。						
15	プロビジョナルレストレーション 副印象～スベータ	演習	シリコーン印象材の取り扱いを理解する。副印象採得方法を習得する。 歯型を削る手順を習得する。ワックスを薄く均一に盛り上げる操作を習得する。						
授 業 計 画									
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容						
16	即時重合レジン～形態修正	演習	即時重合レジンの操作方法を習得する。形態修正で使用するポイント、修正方法を習得する。						
17	研磨	演習	研磨する手順を習得する。						
18	研磨	演習	研磨する手順を習得する。						
19	プロビジョナルレストレーション 副印象～スベータ	演習	シリコーン印象材の取り扱いを理解する。副印象採得方法を習得する。 歯型を削る手順を習得する。ワックスを薄く均一に盛り上げる操作を習得する。						
20	即時重合レジン～形態修正	演習	即時重合レジンの操作方法を習得する。形態修正で使用するポイント、修正方法を習得する。						
21	研磨、模型製作	演習	研磨する手順を習得する。作業用模型石膏注入操作を習得する。						
22	研磨、模型製作	演習	研磨する手順を習得する。作業用模型石膏注入操作を習得する。						
23	作業用模型の製作	演習	基底面削除～二次石膏までの作業手順を習得する。						
24	作業用模型の製作	演習	基底面削除～二次石膏までの作業手順を習得する。						
25	ワックスアップ	演習	ワックスアップの盛り上げ手順を習得する。						
26	ワックスアップ	演習	ワックスアップの盛り上げ手順を習得する。						
27	埋没～鑄造	演習	スプルー植立位置、埋没手順を習得する。遠心鑄造機の取り扱い、還元炎の作り方を習得する。						
28	埋没～鑄造	演習	スプルー植立位置、埋没手順を習得する。遠心鑄造機の取り扱い、還元炎の作り方を習得する。						
29	研磨	演習	スプルーカットから仕上げ研磨までの作業手順を習得する。						
30	研磨	演習	スプルーカットから仕上げ研磨までの作業手順を習得する。						

科目名 (英)	デジタル歯科技工基礎 Digital Dentistry Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
単位		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が 歯冠修復技工学に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	クラウンの製作を通じてCAD /CAMの操作手順を理解する。						
科目概要	歯科専用ソフトウェアのCAD /CAMシステムの基本的な操作方法について理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マウスの使い方を理解する。 ・形の合わせ方を理解する。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を80点、レ ポートの提出を20点として100点満点とする。レポートの提出日については開講日に別途指示する。						
	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】作業工程のポイントについてレポートにまとめる。		
参考図書	授業内にて紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	Tinker Cadを使ったマウスの動かし方	演習	マウスの使い方を習得する。画面上で立体的に形作り方を習得する。 歯ブラシを設計方法を習得する。
2	Tinker Cadを使ったマウスの動かし方	演習	マウスの使い方を習得する。画面上で立体的に形作り方を習得する。 歯ブラシを設計方法を習得する。
3	事後学習	演習	マウスの操作方法についてレポートにまとめる。
4	上顎第一大臼歯クラウン設計①	演習	Aadvaの使用方法を習得する。 マウスの操作(拡大・縮小、移動、回転)を習得する。
5	上顎第一大臼歯クラウン設計②	演習	マージンラインの合わせ方を習得する。 彫刻ツールの使い方を習得する。
6	事後学習	演習	クラウンを設計するためについて必要な操作、彫刻ツールの使い方についてまとめる。
7	STLデータとNCデータの作成	演習	ミリングを行うに当たっての機器の操作を習得する。 NCデータについて理解する。
8	STLデータとNCデータの作成	演習	ミリングを行うためのディスクへの配置を習得する。
9	事後学習	演習	ミリング(切削機)を操作するための操作手順をまとめる。
10	クラウンの調整	演習	ディスクからワックスを取り出操作を習得する。スプルーカットの調整方法を習得する。
11	クラウンの調整、発表準備	演習	ディスクからワックスを取り出操作を習得する。スプルーカットの調整方法を習得する。クラ ウンの製作方法から削り出しまでの流れについて発表する準備をする。
12	事後学習	演習	パワーポイントを作成し、発表する準備をする。
13	発表	演習	デジタル歯科技工で習得した技術・知識についてパワーポイントを用いて発表を実践する。
14	発表	演習	デジタル歯科技工で習得した技術・知識についてパワーポイントを用いて発表を実践する。 リフレクションを通じて習得した技術・知識の振り返る。
15	パワーポイント・振り返り	演習	レポートを作成することができる。

科目名 (英)	歯科材料学Ⅱ Dental Materials Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科技工において使用する金属の特性やセラミックの特性について理解する。						
科目概要	歯科医療で用いる材料を加工して製作する際の材料の特性を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科材料の種類を説明できるようになる。 ・歯科材料の正しい取り扱い方法の説明ができるようになる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出日については開校日に別途指示する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ワックスについて	講義	蠟型採得時に使用されるワックスの種類や性質、特徴について習得する。
2	歯科用金属について	講義	歯科技工に使用される歯科用金属の種類や特徴について習得する。
3	レジン、セラミックについて①	講義	歯科技工で使用される材料についてそれぞれの特徴について理解し、用途について習得する。
4	レジン、セラミックについて②	講義	歯科材料を直接操作することで、それぞれの操作方法を習得する。
5	鑄造欠陥①	実習	金属を融解・鑄造する工程でおこる鑄造欠陥の原因と予防方法について理解することで、鑄造の失敗についての防止方法を習得する。
6	鑄造欠陥②	実習	鑄造操作における欠陥の原因と予防方法について理解し、防止方法を習得する。
7	研磨について	講義	金属やレジンの形態修正や仕上げ研磨に使用する研磨材や器械について理解し、効率の良い研磨について習得する。
8	まとめ講義	講義	ワックス、歯科用金属、レジン、セラミック、鑄造欠陥、研磨についてのまとめ講義を通じて、理解を深める。

科目名 (英)	歯科矯正学基礎 Orthodontics Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科技術予備教育科	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、矯正の知識と理論に基づいて、事例を交えながら授業を行う。						
目的	矯正治療の概要及び歯科技工用器具と機械、材料や技工の手技についての知識を習得する。						
科目概要	不正咬合の種類や矯正治療の手順を知り、各種不正咬合の治療を円滑に行うために用いる主要な矯正装置の特徴や製作方法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・矯正治療の概要を理解する。 ・不正咬合の治療において必要な矯正装置の種類、構成、特徴を覚える。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学 (医歯薬出版株式会社)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。		
参考図書	なし				【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。				その小テストに向けてポイントの復習を行う。		

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	矯正歯科技工学概説	講義	・歯列・咬合の概要を理解し、本当に歯が動き乱れた歯が、綺麗になっていくことを確認する。
2	正常咬合	講義	・生体に見られる正常な咬合や歯の位置異常・アングルの分類について理解する。
3	線屈曲①	講義	・図に合わせて、矯正線を屈曲し曲げ方やプライヤーの操作を理解する。
4	線屈曲②	講義	・図に合わせて、矯正線を屈曲し曲げ方やプライヤーの操作を理解する。
5	矯正治療の進め方	講義	・矯正治療の進め方・矯正装置の分類について理解する。
6	矯正装置①	講義	・機械的矯正装置について理解する。
7	矯正装置②	講義	・機能的矯正装置について理解する。
8	保定・まとめ	講義	・保定の意義、保定装置について理解する。試験に向けてのまとめ

科目名 (英)	小児歯科学基礎 Pedodontics Basic	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし実例を交えながら、必要な知識について授業する。						
目的	歯科技工技術に必要な、専門用語とその意味を習得する。						
科目概要	幼少期から成人するまでの口腔内における成長と歯牙の生え変わりについて理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歯科医療システムと専門職(歯科技工士)について説明ができるようになる。 子どもの歯科技工技術に必要な専門用語の意味を説明できるようになる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】:シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				【事後学習】各授業のプリント教材において内容の確認、見直しを行う。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科技工士について①	講義	小児歯科医療の流れと歯科技工士に求められるものについて理解する。
2	歯科技工士について②	講義	歯科技工士の活躍する場、医療人としての心構えについて理解する。
3	歯科の専門用語について①	講義	小児の歯科技工技術に必要な専門用語の内容について意味を理解する。
4	歯科の専門用語について②	講義	小児の歯科技工技術に必要な専門用語の内容について意味を理解する。
5	歯科の専門用語について③	講義	小児の歯科技工技術に必要な専門用語の内容について意味を理解する。
6	歯科に使用する機材、材料の取り扱いについて①	講義	小児の歯科技工に使用する機材、材料の取り扱いについて理解する。
7	歯科に使用する機材、材料の取り扱いについて②	講義	小児の歯科技工に使用する機材、材料の取り扱いについて理解する。
8	まとめ講義	講義	小児歯科で使用する専門用語、使用機材、材料についてのまとめ講義を通じて、理解を深める。

科目名 (英)	解剖学基礎Ⅱ Anatomy BasicⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
単位		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科医院や歯科技工所での実務経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし実例を交えながら、必要な基本的な法律の知識について授業する。						
目的	歯や口腔の概説、特に永久歯の形態的特徴を学び、実習授業においてその知識を活用できることを目標とする。						
科目概要	歯科医療の現場において大切なことは、ヒトの歯について、その歯が上下左右のどの位置にあるか判別することができることである。この授業においては、歯の種類ごとの特徴についてより深く理解する。						
到達目標	前歯部、臼歯部のヒトの歯について、形態的特徴をそれぞれ説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、レポート60点、プレゼンテーション40点の合計100点満点として評価する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】プリント教材を使い専門用語の確認を推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				【事後学習】プリント教材の内容確認を中心に30分程度、毎日行うことを推進する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	頭蓋骨・下顎骨	講義	頭部の筋を理解する上で必要となる、頭蓋骨の分類と下顎骨の重要な部分名称を理解する。
2	上顎骨・硬口蓋	講義	上顎骨の重要な部分名称を理解する。また、義歯が設計される硬口蓋の骨構成(上顎骨と口蓋骨)を理解する。
3	側頭骨・蝶形骨	講義	頭部の筋や顎関節を理解する上で必要となる、側頭骨と蝶形骨について理解する。
4	深頭筋(咀嚼筋)	講義	下顎の動きを理解する上で重要である咀嚼筋の種類と作用について理解する。
5	舌骨上筋	講義	下顎の動きを理解する上で重要である舌骨上筋種類と作用について理解する。
6	筋の作用・付着部位	講義	咀嚼筋・舌骨上筋の作用を理解し、下顎運動を理解する。咀嚼筋・舌骨上筋の付着部位(下顎骨)を理解する。
7	浅頭筋(顔面筋)	講義	深頭筋違いを明確にし、浅頭筋(顔面筋)について理解する。
8	まとめ講義	講義	頭蓋骨・下顎骨、上顎骨・硬口蓋、側頭骨・蝶形骨、深頭筋(咀嚼筋)、舌骨上筋、筋の作用・付着部位、浅頭筋(顔面筋)についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	生理学基礎Ⅱ Physiology Basic II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	駒井 啓一
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士・歯科衛生士のダブルライセンスを取得し歯科業界に27年歯科業界に携わっている講師が両方の観点から生理学の大切さと演習を交えて授業を行う。						
目的	生理学に関心を持ち学ぶことにより、各臓器の働きと他臓器との結びつきを理解する。						
科目概要	生体の様々な臓器や器官の役割・機能、構造について理解することを目標とする。						
到達目標	生理学での専門用語や意味を学び、理解する。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験の点数を70点、レポートの評価を30点として100点満点換算する。レポートの提出日については開校日に別途指示する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	循環 ②	講義	血液についてと心臓について学びます。
2	消化・吸収 ①	講義	消化と吸収の意義と構造について学びます
3	消化・吸収 ②	講義	消化・吸収の流れや各臓器について学びます。
4	排泄 ①	講義	エネルギー代謝や皮膚からの排泄を学びます。
5	排泄 ②(腎・泌尿器系)	講義	腎臓の機能や尿排泄について学びます。
6	神経 ①	講義	基本的機能や構造を学びます。
7	神経 ②	講義	抹消神経系や主な運動路を学びます。
8	振り返り	講義	1～7回目までの授業の振り返り 7回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	感染症基礎Ⅱ Infection Basic Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	駒井 啓一
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	歯科技工士・歯科衛生士のダブルライセンスを取得し歯科業界に27年歯科業界に携わっている講師が両方の観点から感染症の大切さと演習を交えて授業を行う。						
目的	医療における感染管理、感染対策の知識を持ち、医療に従事するチームの役割を果たすとともに自身の健康を守る						
科目概要	感染とは何か、消毒、滅菌、除菌など言葉があふれているがそれぞれの意味と感染管理、感染予防に必要な知識を習得する						
到達目標	感染する原因と対策を理解する。 ・医療における感染源や感染しやすい感染症について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内で使用したプリント教材について復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ウイルス粒子の構造と感染症	講義	ウイルス粒子による感染・感染症を学びます。
2	ドクソ ^{ドクソ} コウソ ^{コウソ} サンセイ ^{サンセイ} カンセンショウ ^{カンセンショウ} 毒素や酵素の産生と感染症	講義	どのような ^{カンセンショウ} 感染症を引き起こすか認識する。
3	タイナイ ^{タイナイ} ソンザイ ^{ソンザイ} ビセイブツ ^{ビセイブツ} カンセンショウ ^{カンセンショウ} 体内に存在する微生物による感染症	講義	ジョウザイキン ^{ジョウザイキン} カンセンショウウカイ ^{カンセンショウウカイ} 常在菌による感染症を理解する
4	センブク ^{センブク} カンセンカイキ ^{カンセンカイキ} ハッシュョウ ^{ハッシュョウ} 潜伏感染と帰帰発症	講義	潜伏感染とヘルペスウイルスの分類や疾患を理解する。
5	コウクウ ^{コウクウ} キドウ ^{キドウ} カンセンショウ ^{カンセンショウ} 口腔や気道からの感染症	講義	上気道の炎症や気道ウイルスによる感染症を理解する。
6	ヒフ ^{ヒフ} ナンブ ^{ナンブ} ソシキ ^{ソシキ} ソンザイ ^{ソンザイ} カンセンショウ ^{カンセンショウ} 皮膚や軟部組織に存在する感染症	講義	水疱や化膿性病変をつくるウイルスについて理解する。
7	環境中に存在する微生物からの感染	講義	環境中の微生物を理解しどのような感染症えお引き起こすか理解する。
8	振り返り	講義	1～7回目までの授業の振り返り 7回までの講義の理解度を確認する。

科目名 (英)	健康と栄養 Health and Nutrition	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	デンタルサポート(株) 城明妙
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
講師紹介	歯科衛生士であり現在は教育研修を主体として業務を実施中。訪問歯科、矯正歯科、市町村保健センター、企業検診、その他多くの歯科医療関係職に従事した経験を持つ。						
目的	健康な体維持するために必要な栄養について理解する。						
科目概要	健康な体を維持するために必要な栄養について、普段の食生活から考えることで、健康と栄養についての知識を理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療事務に必要な、歯科治療の流れを理解する。 ・医療保険の仕組みを理解する。 ・公費負担について理解する。 ・カルテ記載がスムーズに実施できるようにする 						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事後学習】授業内資料を用いて復習し、専門的な特性について理解を深めることを推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介する。						
特記事項	講義および掲示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	栄養の役割	講義	栄養の役割を理解する。 日本人の栄養摂取状況を理解する。
2	栄養素の働き	講義	糖質、タンパク質、脂質、ビタミンなどの栄養素について理解する。
3	国民の健康と栄養の現状	講義	食生活の変遷と疾病構造の変化について理解する。 国民栄養の現状と課題について理解する。
4	望ましい食生活	講義	国民健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて理解する。 栄養と代謝について理解する。
5	望ましい食生活	実習	国民健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて理解する。 食事環境・食事計画について理解する。
6	ライフステージ別栄養と調理	講義	ライフステージ別の栄養と調理について理解する。
7	食べ物と健康	講義	食品の成分と分類について理解する。 食べ物の物性について理解する。
8	まとめ講義	講義	今までの講義の振り返り

科目名 (英)	専門用語講座Ⅱ	年次	1	選択科目	実務経験	科目 責任者	馬場 知子
	Technical TermsⅡ	授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科技術予備教育科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有する教員が必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	専門用語を読む、書く、意味を理解することで、講義や実習での授業が理解できるようになることを目標とする。						
科目概要	医療で使用する専門用語の読み方や意味を理解することを目標とする。						
到達目標	専門用語を読む、書く、意味が分かる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】作業を示す専門用語の確認を20分程度推奨する。		
参考図書	必要に応じて紹介します。				【事後学習】作業工程のポイントについて繰り返し復習することを推奨する。		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
2	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
3	振り返り	講義	専門用語について理解度を確認する。
4	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
5	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
6	専門用語	講義	専門用語について理解度を確認する。
7	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
8	専門用語	講義	歯科技工の基礎知識に記載している専門用語を理解する。
9	練習問題	講義	専門用語について理解度を確認する。
10	練習問題	講義	練習問題を解きながら専門用語を理解する。
11	練習問題	講義	練習問題を解きながら専門用語を理解する。
12	練習問題	講義	練習問題を解きながら専門用語を理解する。
13	練習問題	講義	練習問題を解きながら専門用語を理解する。
14	練習問題	講義	練習問題を解きながら専門用語を理解する。
15	練習問題	講義	練習問題を解きながら専門用語を理解する。